平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	倫理学概論B ( )			**授業コード**	K006851
担当教員名	藪内　聰和			**科目ナンバリングコード**	–
配当学年	2	**開講期**	後期		
必修・選択区分	教職関係科目(選択必修) 高等学校教諭一種免許状(公民) 中学校教諭一種免許状(社会)	**単位数**	2		
履修上の注意または履修条件	倫理学概論Aを履修することが望ましい。				
受講心得	私語・遅刻・居眠りをしないこと。				
教科書	なし				
参考文献及び指定図書	授業中に適宜指示します。				
関連科目	哲学概論A				

授業の目的	高等学校公民科では教科「倫理」を教え、中学校社会化でも倫理学的な内容を扱います。これらの内容を教えるためには、倫理学の本質、倫理学の歴史、応用倫理学の基礎を学ぶ必要があります。そこで、倫理学概論Aに続いて、本授業の目的は、高等学校公民科と中学校社会科の教員免許取得を目指す学生が、倫理的学な考え方の基礎を培うことにあります。
授業の概要	本授業では、まず、ドイツ観念論、マルクス主義、実存主義　プラグマティズム等の代表的哲学者の倫理学説を検討します。次いで、三大世界宗教を考察する。そして応用倫理学の基礎的問題を考究します。

○授業計画	
学修内容	**学修課題(予習・復習)**
第 1 週 ：ドイツ観念論1　カント カントの義務を重視した倫理学説を学びます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください(1時間)。
第 2 週 ：ドイツ観念論2　フィヒテとシェリング フィヒテとシェリングの倫理学説を学びます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください(1時間)。
第 3 週 ：ドイツ観念論3　ヘーゲル ヘーゲルの倫理学説について学びます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください(1時間)。

第 4 週 : マルクス主義　マルクス マルクスの労働疎外論と倫理学説について学びます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください（1時間）。
第 5 週 : 実存主義1　ニーチェ ニーチェの超人思想と倫理学説について学びます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください（1時間）。
第 6 週 : 実存主義2　キルケゴール キルケゴールの実存の三段階と倫理学の関係を学びます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください（1時間）。
第 7 週 : 実存主義3　ハイデガー ハイデガーの世人の倫理学説を学びます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください（1時間）。
第 8 週 : 実存主義4　ヤスパース ヤスパースの愛しながらの闘争と倫理学説をまなびます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください（1時間）。
第 9 週 : プラグマティズム　デューイ デューイの環境と習慣の関係と倫理学説を学びます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください（1時間）。
第10週 : ロールズの正義論 ロールズの倫理学説について学びます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください（1時間）。
第11週 : 仏教	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください（1時間）。

仏教の倫理学説に学びます。	
第12週： キリスト教 キリスト教の倫理学説について学びます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください（1時間）。
第13週： イスラム教 イスラム教の倫理学説について学びます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください（1時間）。
第14週： 生命倫理学 応用倫理学である生命倫理学の基礎を学びます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください（1時間）。
第15週： 環境倫理学 応用倫理学である環境倫理学の基礎を学びます。	授業で学ぶ倫理学者の生涯を調べておいてください。授業で学んだ倫理学者の著作や関連図書を読んでください（1時間）。
第16週： 期末試験	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	該当しない	
備考		

〇単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	倫理学史に興味が持てたか。
【知識・理解】	倫理学の概略が理解できたか。
【技能・表現・コミュニケーション】	公民科・社会科の倫理分野の基礎的な知識を習得できたか。
【思考・判断・創造】	倫理学的な考え方の基礎を習得できたか。

〇成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	

【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	**25点**		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**25点**		
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	**25点**		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	**25点**		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	
発表・その他（無形成果）	